

高齢者タイプ2では、76種類のケアが20%以上の発生率を示しており、高齢者タイプ1の2倍となっていた。

表 6-3 高齢者タイプ2の高齢者に発生したケア（発生率降順上位20）

TCC	介護業務内容	発生率 (%)	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_141	日常会話、声かけ	100	53.6	46.6	3.0	267.0	109
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	98.2	16.5	13.5	0.7	78.3	107
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	96.3	7.4	7.1	0.3	31.0	105
TCC_142	ニード、訴えを知る	89.0	22.5	27.0	0.3	192.3	97
TCC_152	寝具を整える	82.6	5.0	4.3	0.3	20.3	90
TCC_080	食事の準備	80.7	4.3	3.3	0.3	18.0	88
TCC_202	薬を患者に配布	76.1	3.9	3.0	0.3	15.3	83
TCC_053	衣服を整える	75.2	3.3	3.3	0.3	16.0	82
TCC_085	食事の後始末、配茶後の後始末	75.2	2.6	3.9	0.3	30.3	82
TCC_162	採光・防音調整	72.5	2.6	2.6	0.3	12.3	79
TCC_105	起居の援助	71.6	4.0	4.1	0.3	17.3	78
TCC_106	ギャッチベッドの操作	68.8	4.5	5.4	0.3	27.0	75
TCC_076	おむつ除去、装着	67.0	7.6	7.6	0.3	39.0	73
TCC_100	体位変換一部介助	56.9	4.5	5.4	0.3	30.0	62
TCC_143	ナースコールの受理応答	56.9	2.7	2.2	0.3	8.3	62
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	56.0	11.7	10.8	0.7	68.0	61
TCC_077	おむつの点検	56.0	4.3	5.0	0.3	32.0	61
TCC_051	更衣動作の一部介助	55.0	5.4	5.5	0.3	26.3	60
TCC_052	更衣動作の全介助	55.0	4.8	4.5	0.3	20.0	60
TCC_016	陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)	54.1	4.1	4.1	0.3	17.7	59

### (3) 高齢者タイプ3に発生していたケア

高齢者タイプ3では、「日常会話、声かけ」、「脳・神経系の観察・測定」は、100%発生していた。「ギャッチベッドの操作」が95.4%、「体位変換全介助」89.2%、「ニード、訴えを知る」86.2%、「(夜間)巡視、容態観察」81.5%、「寝具を整える」81.5%、「おむつ除去、装着」80.0%と80%以上に発生していた介護内容は、8種類だった。

70%以上の発生率を示した介護業務は、「衣服を整える」、「体位変換一部介助」72.3%、「点滴・IVHの滴下の調整等」70.8%であった。

60%以上としては、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」66.2%、「薬を患者に配布」64.6%、「おむつの点検」、「採光・防音調整」63.1%、「食事の準備」、「ナースコールの受理応答」61.5%、「床頭台を整頓」60.0%であった。

50%以上の介護業務内容を追加すると、「カーデクス、看護記録等」、「更衣動作の全介助」

56.9%、「留置カテーテルの観察等」、「口腔清潔（歯みがき等）」53.8%、「全身清拭」、「口腔清潔の必要物品準備」、「食事の後始末、配茶後の後始末」、「清拭の必要物品準備」が52.3%、「褥創防止具使用等」、「おむつの後始末」、「温・冷あん法の準備、後始末等」50.8%と続き、発生した237の業務のうち29の介護業務が50%以上の高齢者に発生していた。このように高い割合で発生していた業務は、主に日常生活動作能力の援助が多かったが、体位変換や、ギャッチベットの操作など起居の援助が多かった。

発生率が40%以上を追加すると、「使用物品の後始末」47.7%、「褥創、外科創等の処置等」46.2%、「起居の援助」44.6%、「病室内の掃除」、「点滴、中心静脈栄養の後始末」、「使用物品の後始末」43.1%、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」、「寝具、リネン交換」、「点滴・中心静脈栄養の実施」、「オーバーテーブルの準備・後始末」の40.0%が追加された。

発生率が20%以上では、「患者自身への教育・心理的支援」、「うがい」、「処方箋と処方薬の照合」、「飲み物の用意」36.9%、「吸引の実施・準備・後始末」、「おむつ交換の必要物品準備」、「洗面全介助」35.4%、「酸素吸入の準備・実施・後始末」、「衣服等の準備（靴下、靴含む）」33.8%、「食事部分介助」、「飲み物摂取介助」32.3%、「静脈内注射の準備等」、「部分清拭」、「入れ歯の手入れ」、「ベッド柵つけはずし」、「食事摂取量・水分量測定」30.8%、「点滴、中心静脈栄養の準備等」、「洗面の必要物品準備」、「物品をとってあげる」29.2%、「食事中の見守り」、「患者からのコール等による移動」27.7%、「診察の介助・準備・後始末」、「持続的静脈内注射の準備等」、「換気・温度調節」26.2%、「申し送り」、「手術前指導のオリエンテーション」、「ベッドから、車椅子へ」24.6%、「職員間の連絡」、「医師からの指示を受ける」、「車椅子からベッドへ」、「使用物品の後始末」23.1%、「食べ物を食べさせる」、「更衣動作の一部介助」、「車椅子の操作、準備等」21.5%、「家族への教育・心理的支援」、「マッサージ、さする」、「点眼液・眼用軟膏の処置」20.0%であった。

20%以上の発生率の介護業務内容としては、日常生活動作能力への援助だけでなく、「吸引の実施・準備・後始末」、「酸素吸入の準備・実施・後始末」、「点滴、中心静脈栄養の準備等」といった医療・看護的なケアの発生率が高かった。高齢者タイプ3では、76種類の介護業務が20%以上の発生率を示していたが、これは高齢者タイプ2と全く同じ数であった。

表 6-4 高齢者タイプ3の高齢者に発生したケア（発生率降順上位20）

TCC	介護業務内容	発生率 (%)	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_141	日常会話、声かけ	100	61.7	43.8	1.0	194.0	65
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	100	24.8	22.8	1.0	130.3	65
TCC_106	ギャッチベットの操作	95.4	7.1	6.8	0.7	40.0	62
TCC_101	体位変換全介助	89.2	21.3	27.9	0.3	188.3	58
TCC_142	ニード、訴えを知る	86.2	25.4	26.5	0.3	111.7	56
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	81.5	8.8	7.6	0.3	29.0	53
TCC_152	寝具を整える	81.5	8.8	8.4	0.3	47.3	53

TCC_076	おむつ除去、装着	80.0	11.1	10.5	0.3	40.3	52
TCC_053	衣服を整える	72.3	6.0	7.0	0.3	42.0	47
TCC_100	体位変換一部介助	72.3	5.6	7.6	0.3	44.0	47
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	70.8	14.1	10.8	1.0	53.0	46
TCC_016	陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)	66.2	5.4	6.4	0.3	28.0	43
TCC_202	薬を患者に配布	64.6	4.6	4.1	0.3	18.0	42
TCC_077	おむつの点検	63.1	5.7	8.3	0.3	50.0	41
TCC_162	採光・防音調整	63.1	3.7	4.1	0.3	16.7	41
TCC_080	食事の準備	61.5	6.3	4.6	0.3	19.0	40
TCC_143	ナースコールの受理応答	61.5	2.8	3.9	0.3	20.0	40
TCC_158	床頭台を整頓	60.0	3.0	3.4	0.3	16.0	39
TCC_413	カーデクス、看護記録等	56.9	14.0	31.5	0.3	180.0	37
TCC_052	更衣動作の全介助	56.9	6.9	9.5	0.3	44.0	37

#### (4) 高齢者タイプ4に発生していたケア

高齢者タイプ4では、「日常会話、声かけ」、「脳・神経系の観察・測定」は100%発生していた。次に、「体位変換全介助」が97.5%、「寝具を整える」94.3%と90%以上の発生率のケアが4種類示された、

80%以上の発生率のケアは、「おむつ除去、装着」88.5%、「おむつの点検」87.7%、「ギャッチベッドの操作」84.4%、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」81.1%と排泄に関連するケアが示された。

70%以上のケアとしては、「衣服を整える」77.9%、「吸引の実施・準備・後始末」、「点滴・IVHの滴下の調整等」、「(夜間)巡視、容態観察」76.2%、「口腔清潔(歯みがき等)」74.6%で、医療・看護的なケアが多く示されていた。

60%以上のケアは、「薬を患者に配布」65.6%、「おむつの後始末」63.9%、「褥創防止具使用等」61.5%、「留置カテーテルの観察等」61.5%、「カーデクス、看護記録等」60.7%であった。

50%以上のケアは、「採光・防音調整」57.4%、「ニード、訴えを知る」56.6%、「更衣動作の全介助」55.7%、「清拭の必要物品準備」54.9%、「温・冷あん法の準備、後始末等」、「口腔清潔の必要物品準備」54.1%、「病室内の掃除」52.5%、「部分清拭」50.0%と続き、発生した256の業務のうち26業務が50%以上発生していたケアであった。この数は、高齢者タイプ3の29業務より若干少なくなっている。

40%以上のケアは、「全身清拭」47.5%、「使用物品の後始末」46.7%、「点滴、中心静脈栄養の後始末」、「洗面全介助」45.1%、「使用物品の後始末」43.4%、「経管栄養の実施」41.8%、「点滴、中心静脈栄養の準備等」、「抑制帯の脱着、拘束着の鍵の開閉」、「体位変換一部介助」、「経管栄養の後始末」が41.0%、「処方箋と処方薬の照合」、「経管栄養(経鼻、胃瘻)の準備」40.2%と示され、40%以上となると、かなり医療・看護的なケアの発生率が高いことが示された。

20%以上のケアは、「褥創、外科創等の処置等」39.3%、「寝具、リネン交換」36.1%、「静

脈内注射の準備等」35.2%、「便、尿等採取の実施」34.4%、「おむつ交換の必要物品準備」33.6%、「持続的静脈内注射の準備等」30.3%、「職員間の連絡」、「食事の準備」29.5%、「申し送り」、「起居の援助」27.9%、「診察の介助・準備・後始末」、「床頭台を整頓」27.0%、「車椅子の操作、準備等」、「髭剃り等の準備、後始末」、「口唇の乾燥を防ぐ」26.2%、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」24.6%、「採取の準備・後始末」、「酸素吸入の準備・実施・後始末」、「ベッド柵つけはずし」、「家族への教育・心理的支援」23.8%、「吸入療法・ネブライザー準備等」22.1%、「輸液・輸血中の固定等」21.3%、「手洗い、消毒液の交換」、「ベッドから、車椅子へ」、「排尿頻度、量、間隔のチェック」20.5%と示された。

20%以上の発生率の介護業務内容としては、日常生活動作能力への援助だけでなく、「褥創、外科創等の処置等」、「静脈内注射の準備等」、「持続的静脈内注射の準備等」が30%以上を示しており、高齢者タイプ4では、医療・看護的なケアの発生率が高かった。

また高齢者タイプ4では、64種類の介護業務が20%以上の発生率を示していたが、これは高齢者タイプ2、3よりも少なかった。

表 6-5 高齢者タイプ4の高齢者に発生したケア（発生率降順上位20）

TCC	介護業務内容	発生率 (%)	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_141	日常会話、声かけ	100	52.9	45.6	0.3	273.7	122
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	100	28.1	22.4	1.3	157.0	122
TCC_101	体位変換全介助	97.5	22.8	21.3	0.3	128.3	119
TCC_152	寝具を整える	94.3	8.0	7.1	0.3	35.7	115
TCC_076	おむつ除去、装着	88.5	11.8	11.4	0.3	58.0	108
TCC_077	おむつの点検	87.7	6.9	6.9	0.3	38.3	107
TCC_106	ギャッチベッドの操作	84.4	5.2	4.8	0.3	26.3	103
TCC_016	陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)	81.1	5.5	6.7	0.3	37.0	99
TCC_053	衣服を整える	77.9	6.3	6.0	0.3	28.3	95
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	76.2	26.5	24.8	0.3	143.0	93
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	76.2	14.8	13.3	0.3	71.3	93
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	76.2	12.9	24.8	0.3	177.3	93
TCC_007	口腔清潔(歯みがき等)	74.6	6.1	5.5	0.3	29.7	91
TCC_202	薬を患者に配布	65.6	4.6	4.1	0.3	19.7	80
TCC_079	おむつの後始末	63.9	3.0	4.1	0.3	32.0	78
TCC_102	褥創防止具使用等	61.5	4.8	4.8	0.3	30.7	75
TCC_064	留置カテーテルの観察等	61.5	5.7	6.3	0.3	33.3	75
TCC_413	カーデクス、看護記録等	60.7	23.0	51.5	0.3	359.7	74
TCC_162	採光・防音調整	57.4	2.2	3.1	0.3	21.0	70
TCC_142	ニード、訴えを知る	56.6	18.9	28.3	0.3	162.7	69

### 3. 高齢者タイプ別総介護提供時間の比較

高齢者タイプ別に提供されている総介護提供時間について分析を行った結果、最も長かったのは高齢者タイプ4の高齢者群で平均 373.1 分であった。続いて高齢者タイプ3の高齢者群が長く平均 352.9 分であり、高齢者タイプ4→3→2→1の順に、提供時間は短くなっていった。

なお、高齢者タイプ2と4の間には、総介護提供時間に統計的な有意差は示されなかったが、その他のすべての群間において統計的な有意差が示された。また図6-1～6-4に示したように、それぞれのタイプにおいて介護提供時間が著しく長い高齢者が示されていた。

表 6-6 高齢者タイプ別総介護提供時間

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
総介護提供時間	高齢者タイプ1	175.6	139.1	0	716.3	141
	高齢者タイプ2	274.7	139.7	60.0	759.7	109
	高齢者タイプ3	352.9	177.7	21.0	1031.3	65
	高齢者タイプ4	373.1	235.6	62.3	2149.3	122
	合計	281.9	194.5	0	2149.3	437

表 6-7 総介護提供時間の高齢者類型別比較

		平均値の差	標準誤差	P
高齢者タイプ1	⇔ 高齢者タイプ2	-99.13	22.56	0.00 **
高齢者タイプ1	⇔ 高齢者タイプ3	-177.31	26.52	0.00 **
高齢者タイプ1	⇔ 高齢者タイプ4	-197.54	21.87	0.00 **
高齢者タイプ2	⇔ 高齢者タイプ3	-78.18	27.72	0.03 *
高齢者タイプ2	⇔ 高齢者タイプ4	-98.41	23.32	0.00 **
高齢者タイプ2	⇔ 高齢者タイプ4	-20.22	27.17	1.00

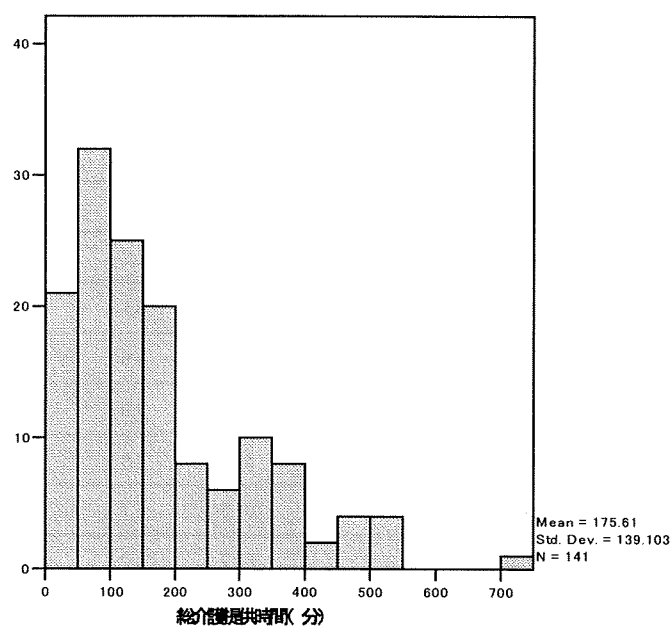


図 6-1 高齢者タイプ1の総介護提供時間の分布

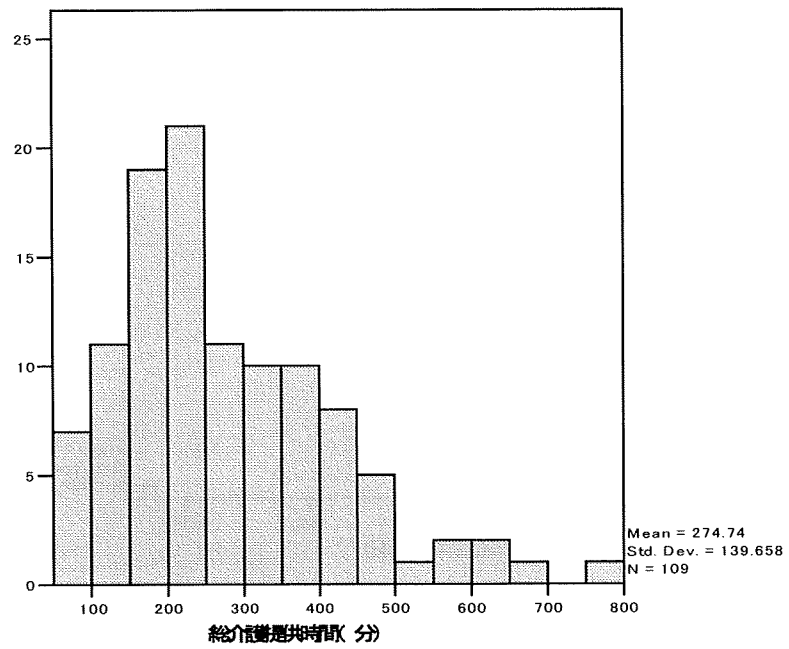


図 6-2 高齢者タイプ2の総介護提供時間の分布

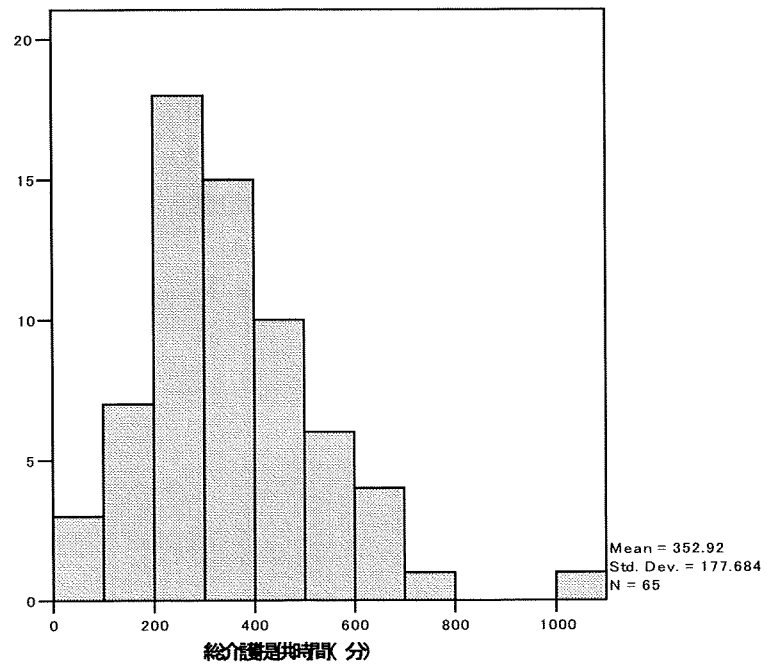


図 6-3 高齢者タイプ3の総介護提供時間の分布

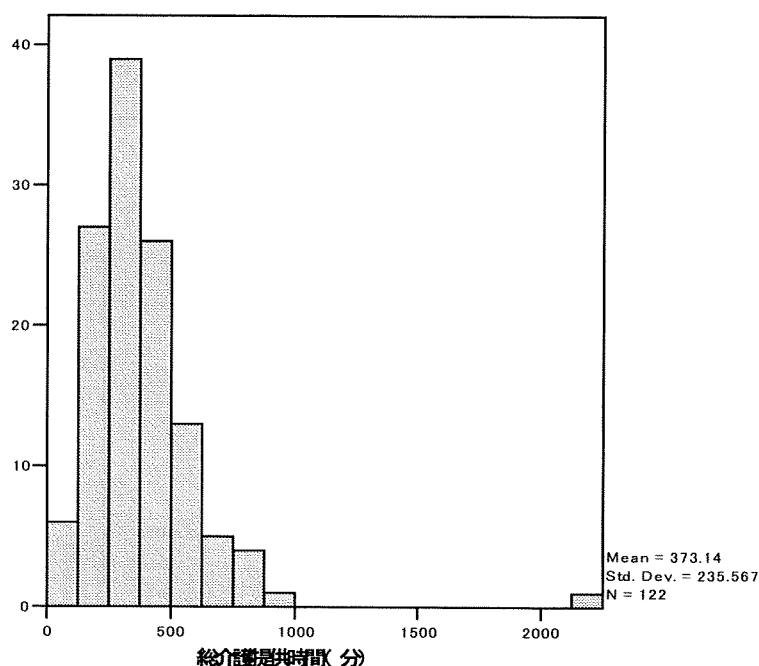


図 6-4 高齢者タイプ4の総介護提供時間の分布

#### 4. 高齢者タイプ別介護業務内容（大分類）別時間の比較

高齢者に提供された介護業務を高齢者タイプ別にみると、総介護業務提供時間からみたその割合については約7割～8割と示され、どのタイプにおいても療養上の世話の時間の割合が高かった。

また、高齢者タイプ3や高齢者タイプ4の「療養上の世話」に関する時間は、長く、この時間が最も長かったのは、高齢者タイプ3で、高齢者タイプ1のほぼ2倍であった。高齢者タイプ4は、「与薬・治療・処置」に関する時間の割合が他の高齢者タイプの約2倍の割合であり、治療や看護が必要な集団と推察された。

リハビリテーションは、高齢者タイプ2が他のタイプと比較すると若干、長かった。

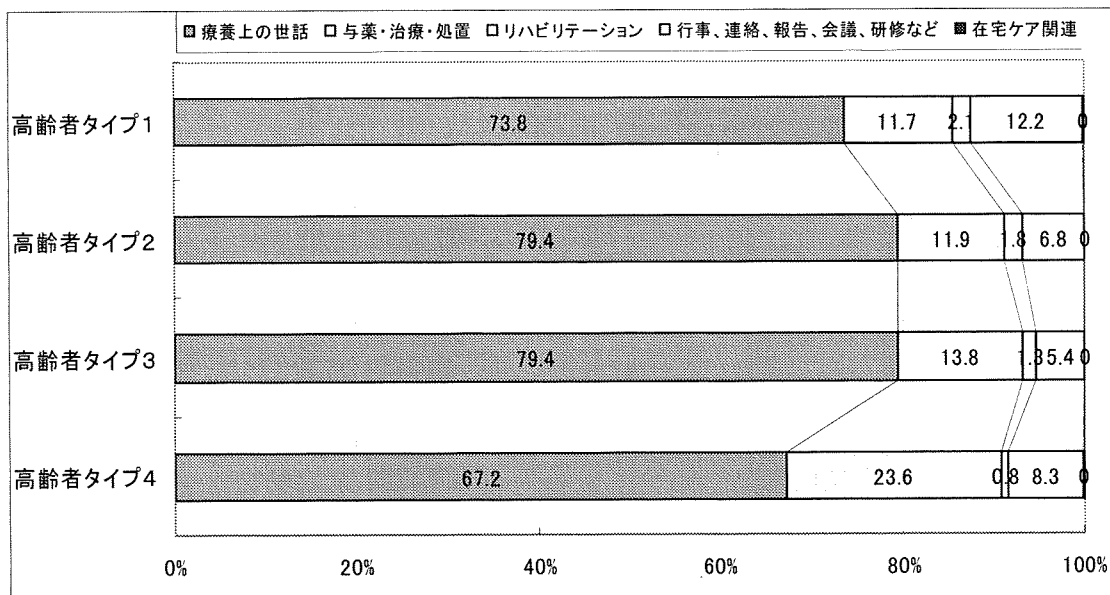


図 6-5 高齢者タイプ別介護業務提供時間割合 (大分類)

表 6-8 高齢者タイプ別介護業務提供時間 (大分類)

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
療養上の世話	高齢者タイプ1	129.5	109.1	0	538.0	141
	高齢者タイプ2	218.2	114.4	28.7	704.0	109
	高齢者タイプ3	280.4	144.4	18.7	908.7	65
	高齢者タイプ4	250.8	127.5	32.7	684.7	122
	合計	207.9	134.0	0	908.7	437
与薬・治療・措置	高齢者タイプ1	20.6	30.0	0	223.7	141
	高齢者タイプ2	32.6	34.7	0	176.0	109
	高齢者タイプ3	48.9	42.7	0	214.3	65
	高齢者タイプ4	87.9	150.8	1	1639.3	122
	合計	46.6	88.9	0	1639.3	437
リハビリテーション	高齢者タイプ1	3.7	10.5	0	58.7	141
	高齢者タイプ2	5.1	14.0	0	104.7	109
	高齢者タイプ3	4.7	12.5	0	68.0	65
	高齢者タイプ4	3.0	9.0	0	58.0	122
	合計	4.0	11.4	0	104.7	437
行事、連絡、報告、 会議、研修など	高齢者タイプ1	21.5	52.7	0	302.7	141
	高齢者タイプ2	18.7	38.8	0	228.0	109
	高齢者タイプ3	19.0	39.9	0	192.3	65
	高齢者タイプ4	31.0	80.1	0	499.7	122
	合計	23.1	57.5	0	499.7	437
在宅ケア関連	高齢者タイプ1	0.2	2.2	0	23.0	141
	高齢者タイプ2	0.1	0.4	0	3.3	109
	高齢者タイプ3	0.0	0.2	0	1.7	65
	高齢者タイプ4	0.4	1.1	0	5.7	122



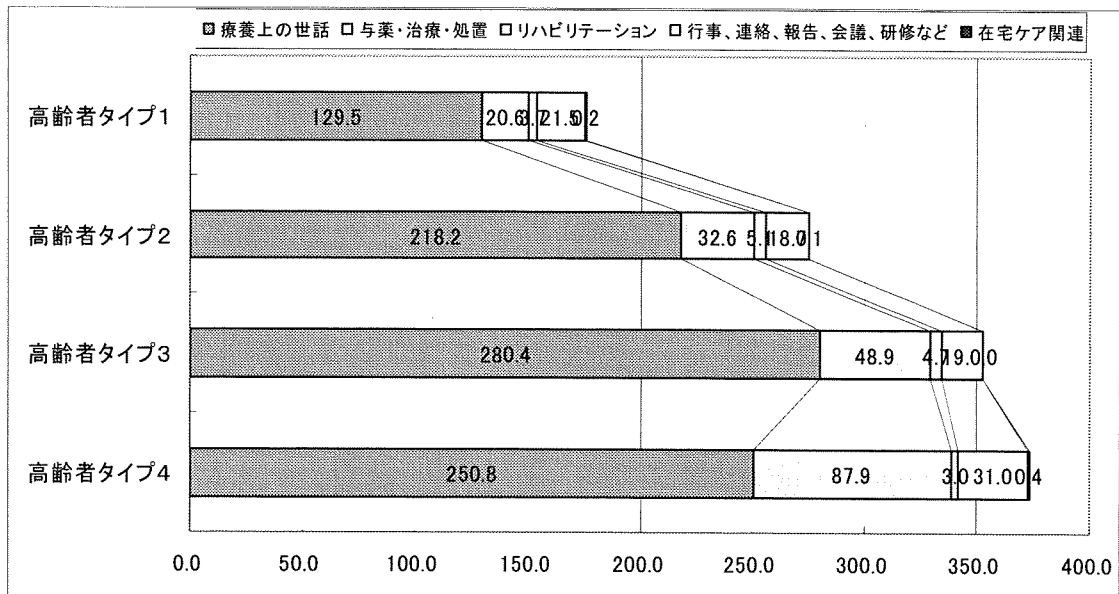


図 6-6 高齢者タイプ別介護業務提供時間（大分類平均値計）

## 5. 高齢者タイプ別介護業務内容（ケア分類）別時間の比較

### (1) 高齢者タイプ1に提供されているケア

高齢者タイプ1で最も多く提供されていたケアは、「日常会話、声かけ」で34.7分、次が、「ニード、訴えを知る」が16.7分、「脳・神経系の観察・測定」が12.9分、「(夜間)巡視、容態観察」が6.6分、「カーデクス、看護記録等」が5.0分と続き、5分以上提供されていたケアの種類は5種類だった。

1分以上提供されていたケアは32種類で、「歩行の見守り」3.8分、「点滴・IVHの滴下の調整等」3.7分、「食事の準備」2.9分、「車椅子による移動の介助」2.8分、「患者自身への教育・心理的支援」2.7分、「申し送り」2.4分、「薬を患者に配布」2.4分、「歩行の介助」2.3分、「ケース会議」2.0分、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」1.8分、「手術前指導のオリエンテーション」1.7分、「排尿時の見守り」1.6分、「更衣動作の一部介助」1.5分、「その他の見守り」が1.4分、「病室内の掃除」、「全身清拭」、「食事の後始末、配茶後の後始末」が1.3分、「処方箋と処方薬の照合」、「車椅子の操作、準備等」、「ナースコールの受理応答」、「寝具を整える」が1.2分、「酸素吸入の準備・実施・後始末」、「職員間の連絡」、「点滴、中心静脈栄養の準備等」、「ギャッチベッドの操作」、「採光・防音調整」、「おむつ除去、装着」が1.0分であった。

表 6-9 高齢者タイプ1の高齢者に提供されているケア（平均値降順上位 20） N=141

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値
TCC_141	日常会話、声かけ	34.7	34.8	0	136.0
TCC_142	ニード、訴えを知る	16.7	21.8	0	126.3
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	12.9	10.8	0	61.3
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	6.6	7.4	0	43.7
TCC_413	カーデクス、看護記録等	5.0	13.7	0	124.0
TCC_117	歩行の見守り	3.8	8.4	0	57.3
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	3.7	7.9	0	46.3
TCC_080	食事の準備	2.9	3.5	0	17.0
TCC_120	車椅子による移動の介助	2.8	6.6	0	42.0
TCC_147	患者自身への教育・心理的支援	2.7	8.5	0	80.0
TCC_410	申し送り	2.4	7.5	0	50.0
TCC_202	薬を患者に配布	2.4	3.1	0	15.7
TCC_118	歩行の介助	2.3	8.9	0	75.0
TCC_412	ケース会議	2.0	7.5	0	44.0
TCC_145	励まし、慰め、術後の心理的ケア	1.8	6.2	0	49.7
TCC_146	手術前指導のオリエンテーション	1.7	4.4	0	29.0
TCC_059	排尿時の見守り	1.6	5.6	0	57.0
TCC_051	更衣動作の一部介助	1.5	3.6	0	30.0
TCC_177	その他の見守り	1.4	6.5	0	51.0
TCC_163	病室内の掃除	1.3	3.9	0	41.7

(2) 高齢者タイプ2に提供されているケア

高齢者タイプ2で最も多く提供されていたケアは、「日常会話、声かけ」で53.6分、次が、「ニード、訴えを知る」が20.0分、「脳・神経系の観察・測定」が16.2分、「(夜間)巡視、容態観察」7.1分、「点滴、中心静脈栄養の実施」、「カーデクス、看護記録等」が5.4分、「おむつ除去、装着」5.1分と続き、5分以上提供されていたケアの種類は、7種類だった。

1分以上提供されていたケアは、61種類で「車椅子による移動の介助」4.6分、「寝具を整える」4.1分、「全身清拭」、「食事の準備」が3.5分、「体位変換全介助」3.2分、「ギャッチベッドの操作」3.1分、「薬を患者に配布」、「更衣動作の一部介助」が3.0分、「食べ物を食べさせる」、「その他の見守り」、「起居の援助」が2.9分、「排尿時の見守り」、「更衣動作の全介助」が2.7分、「褥創、外科創等の処置等」、「食事中の見守り」が2.6分、「体位変換一部介助」2.5分、「衣服を整える」、「おむつの点検」が2.4分、「ケース会議」、「陰部洗浄」、「肛門部洗浄(坐浴)」が2.2分、「点滴、中心静脈栄養の実施」、「吸引の実施・準備・後始末」が2.0分、「食事の後始末、配茶後の後始末」、「採光・防音調整」、「歩行の見守り」が1.9分、「寝具、リネン交換」、「ベッドから、車椅子へ」1.7分、「車椅子の操作、準備等」、

「留置カテーテルの観察等」、「患者自身への教育・心理的支援」、「その他の問題行動への対応」が 1.6 分、「ナースコールの受理応答」、「静脈内注射の準備等」、「おむつの後始末」が 1.5 分、「手術前指導のオリエンテーション」、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」、「持続的静脈内注射の準備等」、「点滴、中心静脈栄養の準備等」が 1.4 分、「病室内の掃除」、「排尿動作援助」、「車椅子から、ベッドへの介助」、「歩行の介助」が 1.3 分、「温・冷あん法の準備、後始末等」1.2 分、「床頭台を整頓」、「口腔清潔（歯みがき等）」が 1.1 分、「排尿後の後始末」、「抑制帯の脱着」、「拘束着の鍵の開閉」、「処方箋と処方薬の照合」、「飲み物摂取介助」、「褥創防止具使用等」、「食事部分介助」、「吸入療法・ネブライザー準備等」が 1.0 分と示された。

高齢者タイプ 2 は、1 に比較すると、食事、排泄、衣服といった日常生活自立のための援助に加えて、移動に関するケアがあり、さらに抑制帯の脱着、拘束着の鍵の開閉、といったケアがなされていることから危険行動への対応が必要な高齢者であることがわかる。

表 6-10 高齢者タイプ 2 の高齢者に提供されているケア（平均値降順上位 20）N=109

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値
TCC_141	日常会話、声かけ	53.6	46.6	3	267.0
TCC_142	ニード、訴えを知る	20.0	26.4	0	192.3
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	16.2	13.5	0	78.3
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	7.1	7.1	0	31.0
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	6.6	10.0	0	68.0
TCC_413	カーデクス、看護記録等	5.4	10.3	0	53.0
TCC_076	おむつ除去、装着	5.1	7.2	0	39.0
TCC_120	車椅子による移動の介助	4.6	9.5	0	58.0
TCC_152	寝具を整える	4.1	4.4	0	20.3
TCC_014	全身清拭	3.5	6.8	0	30.0
TCC_080	食事の準備	3.5	3.4	0	18.0
TCC_101	体位変換全介助	3.2	7.2	0	40.7
TCC_106	ギャッチベッドの操作	3.1	4.9	0	27.0
TCC_202	薬を患者に配布	3.0	3.1	0	15.3
TCC_051	更衣動作の一部介助	3.0	4.9	0	26.3
TCC_083	食べ物を食べさせる	2.9	10.6	0	64.0
TCC_177	その他の見守り	2.9	16.9	0	168.7
TCC_105	起居の援助	2.9	3.9	0	17.3
TCC_059	排尿時の見守り	2.7	6.2	0	36.7
TCC_052	更衣動作の全介助	2.7	4.1	0	20.0

(3) 高齢者タイプ3に提供されているケア

高齢者タイプ3で最も多く提供されていたケアは、「日常会話、声かけ」で 61.7 分、次が、「脳・神経系の観察・測定」が 24.8 分、「ニード、訴えを知る」が 21.9 分、「体位変換全介助」が 19.0 分、「点滴・IVHの滴下の調整等」が 10.0 分、「おむつ除去、装着」8.8 分、「カーデクス、看護記録等」が 8.0 分、「(夜間) 巡視、容態観察」7.2 分、「寝具を整える」7.1 分、「ギャッチベッドの操作」6.8 分、「全身清拭」6.0 分と続き、このように 5 分以上提供されていたケアの種類は、11 種類で、高齢者タイプ3は、ほとんど自分で日常生活を自立して行うことが困難な状態であると推察された。

1 分以上提供されていたケアは、71 種類で、「食べ物を食べさせる」4.8 分、「衣服を整える」4.3 分、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」4.2 分、「体位変換一部介助」4.1 分、「褥創」、「外科創等の処置等」、「更衣動作の全介助」、「吸引の実施・準備・後始末」、「食事の準備」が 3.9 分、「おむつの点検」、「陰部洗浄」、「肛門部洗浄(坐浴)」が 3.6 分、「人工呼吸器使用中の観察」、「薬を患者に配布」が 3.0 分、「寝具、リネン交換」2.7 分、「留置カテーテルの観察等」、「申し送り」、「褥創防止具使用等」、「口腔清潔 (歯みがき等)」2.6 分、「食事部分介助」、「ストレッチャーによる移動」、「食事中の見守り」が 2.5 分、「採光・防音調整」2.3 分、「起居の援助」2.2 分、「車椅子による移動の介助」、「ケース会議」が 2.1 分、「患者自身への教育・心理的支援」、「おむつ交換の必要物品準備」、「おむつの後始末」が 2.0 分、「点滴、中心静脈栄養の準備等」1.9 分、「必要物品準備」、「手術前指導のオリエンテーション」、「床頭台を整頓」1.8 分、「ナースコールの受理応答」、「家族への教育・心理的支援」、「温・冷あん法の準備、後始末等」が 1.7 分、「診察の介助・準備・後始末」、「静脈内注射の準備等」、「洗身全介助」、「手指浴・足浴」、「継続的な評価を伴うモニター監視」が 1.6 分、「吸入療法・ネブライザー準備等」が 1.5 分、「持続的静脈内注射の準備等」、「酸素吸入の準備・実施・後始末」が 1.4 分、「持続吸引等のカテーテルの管理」、「人工肛門のケアの準備、後始末」、「うがい」、「病室内の掃除」が 1.3 分、「排尿動作援助」、「その他の見守り」、「処方箋と処方薬の照合」、「食事の後始末、配茶後の後始末」、「マッサージ、さする」1.2 分、「部分清拭」、「入れ歯の手入れ」、「点滴」、「中心静脈栄養の実施」、「使用物品の後始末」が 1.1 分、「更衣動作の一部介助」、「食間食の食べ物を食べさせる」、「点滴、中心静脈栄養の後始末」、「ベッドから、車椅子へ」が 1.0 分と示された。

これらのケアの実態からは、高齢者タイプ3は、食事や更衣や排泄といった日常生活能力の低下に対するケアと「点滴・IVHの滴下の調整等」などの医療・看護サービスが必要なタイプであると推察された。

表 6-11 高齢者タイプ3の高齢者に提供されていたケア (平均値降順上位 20) N=65

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値
TCC_141	日常会話、声かけ	61.7	43.8	1	194.0
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	24.8	22.8	1	130.3
TCC_142	ニード、訴えを知る	21.9	26.1	0	111.7
TCC_101	体位変換全介助	19.0	27.1	0	188.3
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	10.0	11.1	0	53.0

TCC_076	おむつ除去、装着	8.8	10.4	0	40.3
TCC_413	カーデクス、看護記録等	8.0	24.6	0	180.0
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	7.2	7.7	0	29.0
TCC_152	寝具を整える	7.1	8.3	0	47.3
TCC_106	ギャッチベッドの操作	6.8	6.8	0	40.0
TCC_014	全身清拭	6.0	9.1	0	31.0
TCC_083	食べ物を食べさせる	4.8	14.3	0	87.0
TCC_053	衣服を整える	4.3	6.6	0	42.0
TCC_145	励まし、慰め、術後の心理的ケア	4.2	13.3	0	91.7
TCC_100	体位変換一部介助	4.1	6.9	0	44.0
TCC_234	褥創、外科創等の処置等	3.9	9.6	0	52.0
TCC_052	更衣動作の全介助	3.9	7.9	0	44.0
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	3.9	8.6	0	37.7
TCC_080	食事の準備	3.9	4.7	0	19.0

#### (4) 高齢者タイプ4に提供されているケア

高齢者タイプ4で最も多く提供されていたケアは、「日常会話、声かけ」で52.9分、次が、「脳・神経系の観察・測定」が28.1分、「体位変換全介助」が22.2分、「吸引の実施・準備・後始末」20.2分、「カーデクス、看護記録等」が13.9分、「継続的な評価を伴うモニター監視」12.7分、「点滴・IVHの滴下の調整等」が11.3分、「ニード、訴えを知る」が10.7分、「おむつ除去、装着」10.5分、「(夜間)巡視、容態観察」9.8分、「寝具を整える」7.5分、「おむつの点検」6.1分、「全身清拭」5.3分、「申し送り」5.0分と続き、このように5分以上提供されていたケアの種類は、14種類で、高齢者タイプ4は、タイプ3と同様に、ほとんど自分で日常生活を自立して行うことが困難な状態であり、しかも吸引等が必要な看護ニーズが高いタイプと推察された。

1分以上提供されていたケアは、66種類で、タイプ3の71種類より、少なかった。「衣服を整える」4.9分、「食べ物を食べさせる」4.7分、「人工呼吸器使用中の観察」4.6分、「口腔清潔(歯みがき等)」、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」が4.5分、「ギャッチベッドの操作」4.4分、「更衣動作の全介助」3.8分、「留置カテーテルの観察等」3.5分、「薬を患者に配布」、「点滴、中心静脈栄養の準備等」、「褥創防止具使用等」3.0分、「経管栄養の実施」、「褥創、外科創等の処置等」が2.8分、「抑制帯の脱着」、「拘束着の鍵の開閉」、「吸入療法・ネブライザー準備等」、「その他の見守り」2.7分、「寝具、リネン交換」2.6分、「予防着、ガウンテクニックつける」2.1分、「手指浴・足浴」、「温・冷あん法の準備、後始末等」、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」2.0分、「体位変換一部介助」、「おむつの後始末」、「点滴、中心静脈栄養の実施」、「静脈内注射の準備等」、「持続的静脈内注射の準備等」、「その他の問題行動への対応」が1.9分、「病室内の掃除」、「部分清拭」が1.8分、「経管栄養(経鼻、胃瘻)の準備」1.7分、「経管栄養の後始末」1.6分、「中心静脈内注射の準備等」1.5分、「食事の準備」、「便、尿等採取の実施」1.4分、「清拭の必要物品準備」、「採光・防音調整」が1.3分、「車椅子による移動の介助」、「診察の介助・準備・後始末」、「起坐練習の援助」、「酸素

吸入の準備・実施・後始末」、「処方箋と処方薬の照合」、「口腔清潔の必要物品準備」、「手洗い」、「消毒液の交換」、「髭剃り等の準備、後始末」が 1.2 分、「ベッドから、車椅子への介助」、「点滴、中心静脈栄養の後始末」、「おむつ交換の必要物品準備」、「ストレッチャーによる移動」、「洗身全介助」が 1.1 分、「洗面全介助」、「家族への教育・心理的支援」、「食事中の見守り」、「ケース会議」が 1.0 分であった。

これらのケアの実態からは、高齢者タイプ 4 は、高齢者タイプ 3 と同様に食事や更衣や排泄といった日常生活能力の低下に対するケアと点滴・IVHの滴下の調整等などの医療・看護サービスが必要なタイプであると推察された。

表 6-12 高齢者タイプ 4 の高齢者に提供されていたケア（平均値降順上位 20） N=122

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値
TCC_141	日常会話、声かけ	52.9	45.6	0.3	273.7
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	28.1	22.4	1.3	157.0
TCC_101	体位変換全介助	22.2	21.3	0	128.3
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	20.2	24.4	0	143.0
TCC_413	カーデクス、看護記録等	13.9	41.6	0	359.7
TCC_264	継続的な評価を伴うモニター監視	12.7	126.6	0	1397.0
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	11.3	13.2	0	71.3
TCC_142	ニード、訴えを知る	10.7	23.2	0	162.7
TCC_076	おむつ除去、装着	10.5	11.4	0	58.0
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	9.8	22.3	0	177.3
TCC_152	寝具を整える	7.5	7.2	0	35.7
TCC_077	おむつの点検	6.1	6.8	0	38.3
TCC_014	全身清拭	5.3	8.4	0	42.7
TCC_410	申し送り	5.0	16.3	0	119.0
TCC_053	衣服を整える	4.9	5.9	0	28.3
TCC_083	食べ物を食べさせる	4.7	15.8	0	96.7
TCC_223	人工呼吸器使用中の観察	4.6	13.2	0	76.3
TCC_007	口腔清潔(歯みがき等)	4.5	5.4	0	29.7
TCC_016	陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)	4.5	6.5	0	37.0
TCC_106	ギャッチベッドの操作	4.4	4.8	0	26.3

## 6. 高齢者タイプ別発生したケアにおける平均提供時間

### (1) 高齢者タイプ 1 に発生したケア

高齢者タイプ 1 で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ 1 では、「自己注射の指導・管理等」23.0 分と最も長く、次いで、「透析関連のケア」が 20.5 分、「徘徊老人への対応、探索」が 19.3 分であったが、これらのケアが発生した高齢者は、いずれも 1 人か 2 人であった。

高齢者タイプ 1 の高齢者のうち比較的、多人数に発生したケアで 10 分以上の提供時間が

示されたのは、「ニード、訴えを知る」18.8分、「マッサージ」17.6分、「ケース会議」16.0分、「使用物品の消毒等」14.3分、「脳・神経系の観察・測定」13.3分、「人工呼吸器使用中の観察」13.0分、「持続吸引等のカテーテルの管理」12.6分、「在宅酸素吸引器その他の点検」11.7分、「歩行の介助」11.5分、「継続的な評価を伴うモニター監視」11.2分、「点滴・IVHの滴下の調整等」10.9分、「カーデクス、看護記録等」10.3分、「院内の検査等への付き添い」が10.0分だった。

また、「車椅子による移動の介助」9.5分、「歩行訓練：口頭指示、見守り」9.4分、「腎クリアランスの説明・実施」9.3分、「歩行の見守り」9.2分、「膀胱瘻留置カテーテルの交換」9.0分、「手洗い」、「消毒液の交換」8.6分、「歩行訓練（部分介助）」、「吸入療法・ネブライザー準備等」8.5分、「おむつ除去、装着」8.1分、「その他の見守り、買物」が8.0分、「散歩」7.9分、「筋力増強訓練」、「酸素吸入の準備・実施・後始末」、「全身清拭」7.4分、「中心静脈内注射の準備等」、「洗身全介助」が7.3分、「経口栄養の準備」7.2分、「(夜間)巡視、容態観察」7.1分、「神経筋促通手技等」、「起き上がり訓練（かなり介助して）」、「衣服の修理、繕い、えんげ困難の援助」が7.0分、「吸引の実施・準備・後始末」、「患者自身への教育・心理的支援」が6.8分、「医師からの指示を受ける」、「洗身一部介助」6.7分、「発声・発語器官の運動」、「診察の介助・準備・後始末」が6.5分、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」6.3分、「基本動作のデモンストレーション」6.2分、「家族への教育・心理的支援、洗髪全介助」が6.1分、「職員間の連絡」、「点滴、中心静脈栄養の準備等」、「寝具、リネン交換」、「ストレッチャーから、ベッドへ」6.0分、「排尿時の見守り」5.9分、「車いす操作（かなり介助して）」、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」5.7分、「爪切り（準備・後始末含む）」5.6分、「歩行訓練（かなり介助して）」、「ギャッチベッドの操作」、「おむつの後始末」、「更衣動作の全介助、洗髪一部介助」が5.5分、「関節可動域訓練」、「タッピング、体位排痰の実施等」が5.3分、「褥創、外科創等の処置等」、「浴室内の監視」、「手指浴・足浴」が5.2分、「車椅子の操作、準備等」、「ポータブルトイレの準備・後始末」が5.1分、「エコーの検査の準備・介助後始末」、「気管切開、気管切開口のケア等」、「皮下・筋肉注射の準備等」、「体位変換の使用物品後始末」、「背負っての移動」が5.0分であった。

ただし、「自己注射の指導・管理等」、「徘徊老人への対応・探索」、「人工呼吸器使用中の観察」、「在宅酸素吸引器その他の点検」、「腎クリアランスの説明・実施」、「膀胱瘻留置カテーテルの交換」、「起き上がり訓練（かなり介助して）」、「衣服の修理、繕い」、「ストレッチャーから、ベッドへ」、「車いす操作：かなり介助して」、「気管切開」、「気管切開口のケア等」、「背負っての移動」は、発生した高齢者は、1名だけであった。

また、「透析関連のケア」、「透析ケア使用物品の消毒等」、「買物」、経口栄養の準備、「神経筋促通手技等」、「えんげ困難の援助」、「吸引の実施・準備・後始末」、「発声・発語器官の運動」、「基本動作のデモンストレーション」、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」、「歩行訓練（かなり介助して）」、「エコーの検査の準備・介助後始末」といったリハビリテーション訓練に関する内容や医療・看護に関わるケアも2人にしか発生していなかった。

したがって、これらのケアについては、個人差がある平均時間であるものとして、考える必要がある。

表 6-13 高齢者タイプ1で発生していたケアのうち提供時間が長いケア（平均値降順上位 20）

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_506	自己注射の指導・管理等	23.0	.	23.0	23.0	1
TCC_228	透析関連のケア	20.5	28.5	0.3	40.7	2
TCC_130	徘徊老人への対応、探索	19.3	.	19.3	19.3	1
TCC_142	ニード、訴えを知る	18.8	22.3	0.3	126.3	125
TCC_357	マッサージ	17.6	15.4	1.0	37.0	4
TCC_412	ケース会議	16.0	15.2	0.3	44.0	18
TCC_269	使用物品の消毒等	14.3	18.9	1.0	27.7	2
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	13.3	10.7	1.0	61.3	137
TCC_223	人工呼吸器使用中の観察	13.0	.	13.0	13.0	1
TCC_238	持続吸引等のカテーテルの管理	12.6	16.6	1.3	31.7	3
TCC_505	在宅酸素吸引器その他の点検	11.7	.	11.7	11.7	1
TCC_118	歩行の介助	11.5	17.4	0.3	75.0	28
TCC_264	継続的な評価を伴うモニター監視	11.2	12.9	1.0	34.3	7
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	10.9	10.3	0.3	46.3	48
TCC_413	カーデクス、看護記録等	10.3	18.2	0.3	124.0	69
TCC_250	院内の検査等への付き添い	10.0	11.5	1.3	23.0	3
TCC_120	車椅子による移動の介助	9.5	9.3	0.3	42.0	41
TCC_337	歩行訓練：口頭指示、見守り	9.4	7.6	0.3	23.3	8
TCC_259	腎クリアランスの説明・実施	9.3	.	9.3	9.3	1
TCC_117	歩行の見守り	9.2	11.1	0.3	57.3	59

## (2) 高齢者タイプ2に発生したケア

高齢者タイプ2で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ2では、「日常会話、声かけ」53.6分、「ニード、訴えを知る」22.5分、「食べ物を食べさせる」21.3分、「ケース会議」17.5分、「その他の見守り」16.8分、「脳・神経系の観察・測定」16.5分、「神経筋促通手技等」16.3分、「暴力行為、暴言等への対応」16.0分、「耐久性の評価、作業能力評価」13.2分、「車いす操作：かなり介助して」12.5分、「点滴・IVHの滴下の調整等」11.7分、「吸引の実施・準備・後始末」11.6分、「褥創、外科創等の処置等」11.5分、「持続吸引等のカテーテルの管理」11.2分、「膀胱訓練の準備、後始末等」11.0分、「申し送り」10.8分、「車椅子による移動の介助」10.7分、「カーデクス、看護記録等」10.1分が10分以上の平均値を示していたケアであった。

しかし、これらのうち、「神経筋促通手技等」、「暴力行為、暴言等への対応」、「膀胱訓練の準備、後始末等」は、1名だけであり、「車いす操作（かなり介助して）」については、2名であった。

10分未満で、5分以上提供されていたのは、「体操介助」、「浴室内の監視」9.7分、「ストレッチャーによる移動」9.4分、「全身清拭」9.2分、「発声・発語器官の運動」9.1分、「歩



行の見守り」9.0分、「排尿時の見守り」8.6分、「人工呼吸器使用中の観察」8.4分、「関節可動域訓練」8.3分、「洗身全介助」8.1分、「移乗動作訓練」8.0分、「その他の問題行動への対応」7.6分、「おむつ除去、装着」7.6分、「(夜間) 巡視、容態観察」7.4分、「協調性訓練」7.3分、「体位変換全介助」7.2分、「食事中の見守り」7.0分、「職員間の連絡」6.8分、「抑制帯の脱着、拘束着の鍵の開閉」6.6分、「予防着、ガウンテクニックつける」、「吸入療法・ネブライザー準備等」、「歩行の介助」6.5分、「持続的静脈内注射の準備等」6.2分、「食間食の食べ物を食べさせる」6.1分、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」、「静脈内注射の準備等」5.9分、「患者自身への教育・心理的支援」5.8分、「医師からの指示を受ける」、「更衣動作訓練」が5.7分、「排便時の見守り」5.5分、「歩行訓練：口頭指示、見守り」、「点滴、中心静脈栄養の実施」、「更衣動作の一部介助」、「手指浴・足浴」5.4分、「筋力増強訓練」、「透析関連のケア」、「寝具、リネン交換」、「家族への教育・心理的支援」、「ポータブルトイレの準備・後始末」が5.3分、「リフトの操作、移動の介助」5.1分、「マッサージ」、「移乗動作能力評価」、「寝具を整える」が5.0分であった。

このうち、「体操介助」、「移乗動作訓練」、「マッサージ」は、1人への提供であり、「更衣動作訓練」、「透析関連のケア」は、2人に提供していた時間であり、平均的な時間としては、さらに吟味が必要である。

表 6-14 高齢者タイプ2で発生していたケアのうち提供時間が長いケア（平均値降順上位 20）

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_141	日常会話、声かけ	53.6	46.6	3.0	267.0	109
TCC_142	ニード、訴えを知る	22.5	27.0	0.3	192.3	97
TCC_083	食べ物を食べさせる	21.3	21.3	1.0	64.0	15
TCC_412	ケース会議	17.5	14.7	0.3	50.0	14
TCC_177	その他の見守り	16.8	38.4	0.3	168.7	19
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	16.5	13.5	0.7	78.3	107
TCC_358	神経筋促進手技等	16.3	.	16.3	16.3	1
TCC_132	暴力行為、暴言等への対応	16.0	.	16.0	16.0	1
TCC_362	耐久性の評価、作業能力評価	13.2	9.1	2.0	24.0	4
TCC_336	車いす操作：かなり介助して	12.5	2.1	11.0	14.0	2
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	11.7	10.8	0.7	68.0	61
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	11.6	9.5	0.3	35.0	19
TCC_234	褥創、外科創等の処置等	11.5	26.0	0.3	111.7	25
TCC_238	持続吸引等のカテーテルの管理	11.2	12.6	1.0	33.7	6
TCC_063	膀胱訓練の準備、後始末等	11.0	.	11.0	11.0	1
TCC_410	申し送り	10.8	12.0	0.3	34.3	20
TCC_120	車椅子による移動の介助	10.7	12.0	0.7	58.0	47
TCC_413	カーデクス、看護記録等	10.1	12.3	0.3	53.0	58

TCC_128	体操介助	9.7	.	9.7	9.7	1
TCC_046	浴室内の監視	9.7	9.6	1.0	20.0	3

### (3) 高齢者タイプ3に発生したケア

高齢者タイプ3で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ3では、「日常会話、声かけ」が61.7分と最も長かった。「人工呼吸器使用中の観察」32.7分、「バランス訓練（部分介助）」27.0分、「体操介助」26.0分、「ニード、訴えを知る」25.4分、「脳・神経系の観察・測定」24.8分、「食べ物を食べさせる」22.5分、「人工肛門のケアの準備、後始末」21.4分、「体位変換全介助」21.3分が20分以上のケアと示され、長時間投下されたケアとして示された。ただし、このうち、「バランス訓練：部分介助」、「体操介助」は1名だけに発生していたケアであった。

10分以上、提供されていたケアは、「車椅子から浴槽内リフト等」へ19.0分、「エコーの検査の準備・介助後始末」17.7分、「マッサージ」16.5分、「洗身全介助」14.8分、「浴室内の監視」14.5分、「洗髪全介助」14.4分、「点滴・IVHの滴下の調整等」14.1分、「カーデクス、看護記録等」14.0分、「ストレッチャーによる移動」13.5分、「嚥下訓練」13.0分、「ケース会議」12.3分、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」12.0分、「関節可動域訓練」11.7分、「全身清拭」11.5分、「車椅子による移動の介助」、「特殊浴槽から車椅子への移乗介助」が11.3分、「吸引の実施・準備・後始末」、「おむつ除去、装着」11.1分、「発声・発語器官の運動」11.0分、「食間食の食べ物を食べさせる」10.8分、「申し送り」10.6分、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」10.5分、「座位訓練：部分介助」10.3分、「手指浴・足浴」10.2分が10分以上の平均値を示していたケアであった。

ただし、このうち、「車椅子から浴槽内リフト等」と「エコーの検査の準備・介助後始末」、「上肢機能・手指巧緻性」の訓練は1人だけ、「マッサージ」、「浴室内の監視」、「特殊浴槽から車椅子への移乗介助」、「発声・発語器官の運動」は2人に発生していたケアであった。高齢者タイプ3は、高齢者タイプ1や2と比較すると10分以上、提供されたケアの種類が多く、日常生活動作能力の援助だけでなく、リハビリテーションや、医療や看護的なケアなど多様なケアが長く投下されていた。

表 6-15 高齢者タイプ3で発生していたケアのうち提供時間が長いケア(平均値降順上位20)

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_141	日常会話、声かけ	61.7	43.8	1.0	194.0	65
TCC_223	人工呼吸器使用中の観察	32.7	41.3	2.3	114.0	6
TCC_329	バランス訓練：部分介助	27.0	.	27.0	27.0	1
TCC_128	体操介助	26.0	.	26.0	26.0	1
TCC_142	ニード、訴えを知る	25.4	26.5	0.3	111.7	56
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	24.8	22.8	1.0	130.3	65
TCC_083	食べ物を食べさせる	22.5	24.1	0.3	87.0	14
TCC_071	人工肛門のケアの準備、後始末	21.4	22.3	0.7	42.7	4

TCC_101	体位変換全介助	21.3	27.9	0.3	188.3	58
TCC_037	車椅子から浴槽内リフト等へ	19.0		19.0	19.0	1
TCC_254	エコーの検査の準備・介助後始末	17.7		17.7	17.7	1
TCC_357	マッサージ	16.5	21.0	1.7	31.3	2
TCC_045	洗身全介助	14.8	7.5	1.7	22.3	7
TCC_046	浴室内の監視	14.5	7.8	9.0	20.0	2
TCC_021	洗髪全介助	14.4	13.9	3.3	30.0	3
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	14.1	10.8	1.0	53.0	46
TCC_413	カーデクス、看護記録等	14.0	31.5	0.3	180.0	37
TCC_121	ストレッチャーによる移動	13.5	11.7	1.7	35.3	12
TCC_306	嚥下訓練	13.0	15.1	1.0	30.0	3
TCC_412	ケース会議	12.3	13.0	1.0	39.0	11

#### (4) 高齢者タイプ4に発生したケア

高齢者タイプ4で発生していたケアについて、発生していた高齢者の平均値を分析した。この結果、高齢者タイプ4では、「継続的な評価を伴うモニター監視が最も長く」85.9分であった。次に、「死後のケア」が72.0分、「日常会話、声かけ」52.9分、「起坐練習の援助」29.7分、「脳・神経系の観察・測定」28.1分、「食べ物を食べさせる」27.4分、「吸引の実施・準備・後始末」26.5分、「人工呼吸器使用中の観察」25.4分、「アイソトープ検査の準備」25.0分、「検査のためのカテーテル挿入」24.7分、「カーデクス、看護記録等」23.0分、「体位変換全介助」22.8分と医療・看護的なケアへの投下時間が長くなっていた。ただし、「死後のケア」、「アイソトープ検査」の準備は1人のみ提供されており、検査のためのカテーテル挿入も2人だけであった。

20分未満、10分以上投下されていたケアは、「ニード、訴えを知る」18.9分、「医療、行政担当者との連絡」18.0分、「申し送り」17.8分、「基本動作のデモンストレーション」17.7分、「内視鏡検査の説明等」16.0分、「座位訓練（かなり介助して）」15.7分、「点滴・IVHの滴下の調整等」14.8分、「その他の見守り」14.7分、「洗身全介助」14.4分、「手指浴・足浴」13.9分、「(夜間) 巡視、容態観察」12.9分、「吸入療法・ネブライザー準備等」12.2分、「バランス訓練（かなり介助して）」12.0分、「その他の問題行動への対応」11.9分、「おむつ除去、装着」11.8分、「予防着、ガウンテクニックつける」、「全身清拭」11.1分、「中心静脈内注射の準備等」が10.5分投下されていた。

これらのケアのうち、「基本動作のデモンストレーション」、「内視鏡検査の説明等」、「座位訓練（かなり介助して）」、「バランス訓練（かなり介助して）」は1人だけに投下されていたケアであった。したがって、投下された時間については、当該高齢者の特徴を示したものとなっている可能性があった。一方で、10分以上投下されたケアが30種類以上示されたのは、高齢者タイプ3と4だけであった。いずれのタイプも医療・看護的ケアや日常生活動作能力への支援、そしてリハビリテーションと多様なケアが高齢者タイプ1や2よりも長時間投下されていた。

表 6-16 高齢者タイプ4で発生していたケアのうち提供時間が長いケア  
(平均値降順上位 20)

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_264	継続的な評価を伴うモニター監視	85.9	327.7	0.3	1397.0	18
TCC_271	死後のケア	72.0		72.0	72.0	1
TCC_141	日常会話、声かけ	52.9	45.6	0.3	273.7	122
TCC_122	起坐練習の援助	29.7	42.7	0.7	103.0	5
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	28.1	22.4	1.3	157.0	122
TCC_083	食べ物を食べさせる	27.4	29.4	1.0	96.7	21
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	26.5	24.8	0.3	143.0	93
TCC_223	人工呼吸器使用中の観察	25.4	21.0	0.3	76.3	22
TCC_256	アイトーブ検査の準備	25.0		25.0	25.0	1
TCC_247	検査のためのカテーテル挿入	24.7	27.3	5.3	44.0	2
TCC_413	カーデクス、看護記録等	23.0	51.5	0.3	359.7	74
TCC_101	体位変換全介助	22.8	21.3	0.3	128.3	119
TCC_142	ニード、訴えを知る	18.9	28.3	0.3	162.7	69
TCC_411	医療、行政担当者との連絡	18.0	19.1	7.0	40.0	3
TCC_410	申し送り	17.8	27.1	1.0	119.0	34
TCC_311	基本動作のデモンストレーション	17.7		17.7	17.7	1
TCC_257	内視鏡検査の説明等	16.0		16.0	16.0	1
TCC_321	座位訓練:かなり介助して	15.7		15.7	15.7	1
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	14.8	13.3	0.3	71.3	93
TCC_177	その他の見守り	14.7	22.4	0.3	85.7	22

## 第7章 介護重視型における時間帯別高齢者タイプ別介護内容時間および発生率

### 1. 時間帯別平均提供時間

時間帯別に、すべての高齢者一人あたりに提供されている平均時間は15分であった。ただし、最大提供時間は252.0分があったが、最小時間では0.3分と示された。

すべての時間帯において、平均提供時間が最も短かったのは、午前4時台の6.7分であった。次いで短かったのは0時台の6.8分である。また、21時から5時までの9時間の時間帯には、10分未満の提供となっていた。

一方、提供時間が長かった時間帯は9時台の27.6分であり、次いで午前10時台の27.1分であった。11、14時台が23.3分、23.0分と長く、9時から11時台にかなり長時間ケアが提供され、12、13時台に若干減少し、14時、15時台に再び増加するが18時から22時台までは漸次減少していく傾向が見られた。

さらに5時までは、かなり短い時間しか提供されておらず、6時台から再び9時までは増加するというパターンを示していた。この増加に際しては、8時から9時にかけての増加時